



釜ヶ湊の自然農法で育つ子どもたち

学校では、運動会まであと10日程となりました。子供たちはこれまでの学習で取り組んできた100m走等の競技や応援練習の成果を本番で発揮しようと思っています。自分の目当てをもち、懸命に努力する姿には、たくましさを感じます。また、一緒にチームで取り組む競技については、仲間をさりげなく誘う姿、支える姿が見受けられ、そこからはやさしさを感じます。この姿は、一朝一夕で形成されるものではありません。家庭、地域、学校等の人々との温かいかわりの中で、長い年月をかけて育まれてくるものです。

先日、公民館長の武田さんに白菜づくりの極意を教えていただいた際、「自然農法」という言葉を教えていただきました。「薬は使わない。虫にも少し食べさせてやらんと。虫もいないと作物は育たん。うちは、自然農法だよ。」

「自然農法」について調べてみると、枯れ草や藁などで堆肥を作り、田畑に還元することで、自然界と同じ生命力ある土を作り出し、自然の仕組みを上手に再現した生産方法だそうです。農薬を使わずリンゴを栽培され、映画「奇跡のリンゴ」で話題になった青森県の木村さんの農法は、「自然栽培」と呼ぶそうです。その木村さんの話も館長さんのように「人間に悪いところが虫が食べてくれているのだと思えばいい。」と話しておられたのを思い出しました。お二人の話からすばらしいと感じるのは、目の前の作物のみを育てることに注視せず、取り巻く環境のおかげで育っていることに感謝し、空間的にも時間的にも大きな枠で行動していこうとする人間性や風土です。短い言葉で表現するならば、「共存共栄」の精神でしょうか。子どもたちに分かりやすく伝えるのであれば、「思いやり」「寛容」「感謝」ではないかと思います。

運動会では、釜ヶ湊の風土で育ってきている子どもたちの姿を楽しみにしています。当日は、いろいろと規制がありますが、大いなる心で子どもたちの成長の一端を見届けてくださいますよう、よろしくお願いします。

畑の準備をして、
今度は冬野菜を育てています

3年生



6年生 算数の学習より



5年生 運動会に向けて
ダンスの練習

2年生



1年生



4年生 理科の学習より



QR コード

先日案内した通り、資源回収は、11月7日（日）に予定しています。今回の資源回収では、アルミ缶は回収せず、「新聞紙」「雑誌・ちらし」「ダンボール」の3種類を回収する予定です。ご協力をお願いいたします。